

2014年6月21日

報道関係各位

株式会社ベネッセホールディングス
(コード番号:9783 東証第一部)

第60期定時株主総会のご報告

株式会社ベネッセホールディングスは、本日、第60期定時株主総会を下記の通り開催しましたのでご報告申し上げます。

言 己

1. 日 時：2014年6月21日(土) 13:30～15:16
2. 場 所：当社 本店(岡山県岡山市北区南方 3-7-17)
3. 出席株主数：554名(昨年521名)
4. 所要時間：1時間46分(昨年1時間50分)
5. 議 長：代表取締役社長 福島保
6. 報告事項:
 - ① 第60期(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)事業報告、連結計算書類及び計算書類の内容報告の件
 - ② 会計監査人及び監査役会の第60期連結計算書類監査結果報告の件
7. 決議事項:
 - 第1号議案 定款一部変更の件
 - 第2号議案 取締役10名選任の件
 - 第3号議案 取締役の報酬額改定の件
8. 株主からのご質問・ご意見 延べ14名(昨年延べ17名)

進研ゼミの会員数減少の理由と対策について、今後の事業計画について、変革活動における「筋肉質化」について、中国事業について、介護事業について、大学入試改革への対応について、グローバル人材育成・英語事業について、役員選任議案について、等のご質問とご意見をいただきました。
9. その他
閉会后、代表取締役会長兼社長に就任予定の原田泳幸(※)、今回の株主総会をもって取締役会長を退任し最高顧問に就任した福武総一郎より株主の皆様にご挨拶を申し上げます。

※原田は本日の株主総会後の取締役会を経て代表取締役会長兼社長に就任いたしました。

ご挨拶の内容については別紙に要旨を記載しております。

以上

6/21 株式会社ベネッセホールディングス 株主総会閉会後のご挨拶(概要)

<ご挨拶>

株式会社ベネッセホールディングス
代表取締役会長兼社長 原田泳幸



44年のグローバル企業経験、33年間のIT業界での経験、11年間のマクドナルドでのピープルビジネスの経験を活かし、これからベネッセの経営の舵取りを行っていききたいと思います。社長の仕事はステークホルダーの皆様にとっての価値を上げることです。そのための方法はひとつ。「業績を上げること」が一番の大きな任務と考えています。また、同時に、継続的成長のためには人材育成、後継者の育成が大きな責務です。

現在ベネッセは「変革」を行っていますが、これは目的ではなく、成長のための手段です。「変革」とは創造的破壊をしながら成長することです。私は4月からベネッセの経営に全力を注いでおり、まずは事業規模の最も大きい進研ゼミに集中して議論を行ってきました。また、ベルリッツについても議論・アクションを

開始しています。次は海外展開、そして介護の「質」を保った成長に視点を広げていきたいと考えております。

ベネッセの強みは、創業期から60年間培ってきた企業文化、教育の専門的知見、ブランド力、圧倒的な会員数、赤ペン先生や塾・語学講師、教材制作スタッフ等の「人」の力と、そこから生み出される独自の顧客価値です。これらの強みを一層強化し生かすことが私の使命です。「学ぶ」「暮らす」から介護までと、他にない事業ポートフォリオを活かし、事業間の相乗効果を生んでいきたいと思っています。そして、お客様の一生涯にわたってお付き合いができる、世界唯一の企業を目指してまいります。

<ご挨拶>

株式会社ベネッセホールディングス
最高顧問 福武總一郎



この度、取締役を退任し、最高顧問に就任することになり、株主総会での発言も今回が最後になりました。皆様にお礼を申し上げます。私は1973年に福武書店に入社し、今年で41年になります。

1986年以降28年間、社長、会長として経営の第一線での舵取りを行ってまいりました。企業理念として「Benesse」（よく生きる）を導入し1995年には社名をベネッセコーポレーションと変更し「人を軸とする企業」としてのスタートをいたしました。また同年、株式上場をすることができました。国内では、通信教育事業・学校事業の拡大と同時に、介護や保育、生活事業を開始しました。また、台湾からスタートした海外展開では会員数が現在92万人となりました。1993年に買収を行ったベルリッツコーポレーションも世界75カ国で展開をいたしております。



直島の活動、瀬戸内国際芸術祭を通じて過疎の島々の方々が本当に元気になったことも何よりうれしいことです。

60年前岡山からスタートした企業が現在では世界第3位の教育産業に発展することができましたことは、ひとえに皆様のご支援の賜物と心より感謝申し上げます。我々の事業を取りまく環境が変化中、強力なリーダーシップを備えた原田さんという新経営者を迎え、国内はもとより世界にむけて更なる飛躍を期待できるものと考えております。皆様には、今後人を軸として教育・生活・介護分野で世界 No. 1 を目指す当社の発展を見守っていただければと存じます。

本当に長い間ありがとうございました。